2024年2月25日礼拝説教要約

ローマ人への手紙に聴く㉕

「『残された者』なるご計画」

（ローマ11・1～10）

一、この私が救われたのだから

11章1節を見てまいります。**〈それでは尋ねますが、神はご自分の民を退けられたのでしょうか。決してそんなことはありません。この私もイスラエル人で、アブラハムの子孫、ベニヤミン族の出身です。〉**とあります。ローマに興された教会の異邦人キリスト者たちは、こう思ったかもしれません。「神はご自分の民を退けられ、われわれを受け入れてくださった」と。もしそのように思っていたなら、神の前に無知であり、傲慢なことです。パウロは語りました。**〈それでは尋ねますが、神はご自分の民を退けられたのでしょうか。決してそんなことはありません〉**と。そして確信を持って語りました。**〈この私もイスラエル人で、アブラハムの子孫、ベニヤミン族の出身です。〉**と。何を語っているのかと申しますと、「神はご自分の民を退けられたのではない。その証明はここにある。すなわち、この私がイスラエル人であり、アブラハムの子孫、ベニヤミン族の出身である。私こそ生き証人である」ということです。

これを、私たちに当てはめるとどうなるでしょうか。「どうして日本国では、救われる人が少ないのか。神は日本国を退けられたのか。決してそんなことはない。現に、キリスト者1パーセント未満と言われている日本国において、私が救われたではないか」となります。祈らないから、同胞が救われないのではありません。伝道しないから救われないのか。こちらは、やや当たっているかも知れません。ですが、礼拝活動を続けていることが最大の宣教であると、私は受け取っています。その上でクリスチャン人口が1パーセント未満なのは、日本国における信仰の生態系なのかも知れないと、私は考えております。だから、むやみに卑屈になる必要もなければ、あきらめる必要もありません。

二、「残された者」なるご計画

パウロは、「なぜイスラエルは、律法を超える神のことばである福音を退けるのか」と考え続けていたことと思われます。すると神は、キリストによって、覆われていた覆いを取り除けてくださいました。すなわち、啓示してくださいました。2節以降は、パウロに示された啓示です。

2節です。**〈神は、前から知っていたご自分の民を退けられたのではありません。それとも、聖書がエリヤの箇所で言っていることを、あなたがたは知らないのですか。エリヤはイスラエルを神に訴えています。〉**と語っています。エリヤが訴えた「イスラエル」とは、北王国イスラエルのことです。ちなみに、預言者エリヤ、エリシャ、ホセアは、北王国イスラエルの預言者でした。北王国イスラエルが、どれだけカナン人の宗教であるバアル礼拝に浸食されていたかは、列王記を読むと出てまいります。預言者エリヤはたった一人で、悪の権化のような妃イゼベルが率いるバアルの預言者四百五十人、アシェラの預言者四百人と対決しました。場所は、イスラエルの北部にあるカルメル山です。主は、火をもってエリヤに答えられ、エリヤは彼らに打ち勝ちました。ところがイゼベルが、**「もし私が、明日の今ごろまでに、おまえのいのちをあの者たちの一人のいのちのようにしなかったなら、神々がこの私を幾重にも罰せられるように」**（Ⅰ列王19・2）と語り、これがエリヤに伝えられると、「青菜に塩」のように弱ってしまいました。そして語ったことばが、3節です。**〈「主よ。彼らはあなたの預言者たちを殺し、あなたの祭壇を壊しました。ただ私だけが残りましたが、彼らは私のいのちを狙っています。」〉**と。すると、主は語られました。4節です。**〈しかし、神が彼に告げられたことは何だったでしょうか。「わたしは、わたし自身のために、男子七千人を残している。これらの者は、バアルに膝をかがめなかった者たちである。」〉**と。

「バアルに膝をかがめなかった七千人」とは、「自分のたましいを不正に委ねなかった七千人」にも言い換えられます。不思議と、時代を超えてどの国にもいます。ただ、私たちの目には見えないのです。ですが、神には見えます。その「バアルに膝をかがめなかった七千人」を「残された者たち」と呼んでいます。5節です。**〈ですから、同じように今この時にも、恵みの選びによって残された者たちがいます。〉**と。今現在は頑なになっている人たちです。それはイスラエルの全歴史を通して言えることです。アブラハムの時代から考えるなら、パウロまで二千年以上、さらにパウロの時代から二千年が経っています。そういうイスラエルの歴史において、8節で**〈「神は今日に至るまで、彼らに鈍い心と見ない目と聞かない耳を与えられた」と書いてあるとおりです。〉**と語りました。神がイスラエルに、鈍い心と見ない目と聞かない耳を与えられたのであるなら、どうしようもありませんね。ですが5節で語られているように、**〈今この時にも、恵みの選びによって残された者たちが〉**いるのです。それが、主のご計画と知ります。

日本国にも、救われるべく「残された者たち」が、あるいは自分のたましいを不正に委ねない「残された者たち」がいます。そのように、みことばから信じて歩んで行こうではありませんか。